あとがき

本報告書の英語版のタイトルの「Sharing Experiences」は言い得て妙である。この論考集では、防衛研究所（NIDS）とドイツ連邦軍軍事史・社会科学研究所（ZMSBw）の研究者が、両機関の現在の研究事業に対する洞察を「共有」している。

本報告書は、両機関の活動と幅広いテーマを紹介するものである。だが「共有」は、別の側面をも示唆している。すなわち、ワークショップの全参加者が対話を交わしたということである。そして、本報告書にまとめられた論稿のテーマやアプローチは様々であるが、一つの包括的なパターンが認められる。我々は、様々な視点を論じて提供し、各事例に新たな洞察をもたらせるのだ。例えば、1945年にアジアで第二次世界大戦が終結した経緯を論じるにあたって、我々はヨーロッパにおける第二次世界大戦の終結との多くの相違のみならず、1918年のドイツの戦争終結との類似点を見出すことができた。また、ZMSBwの研究者は、日本の大戦略、及び第二次世界大戦で日本がとるべき戦い方をめぐる軍部内の対立に強い関心を示すようになり、これを、ドイツや他の交戦国の戦略的な意思決定を関連付けて考えはじめるようになった。加えて、多国籍軍の体制に関する近年の状況さえ、日独両機関の関心の対象となった。このように、ワークショップを終えるたびに、私をはじめZMSBwの研究者は、日本の仲間との共同作業が「既存の枠にとらわれない」発想につながることを実感したのである。

したがって、「共有」とは日独間の長年に及ぶ関係を指すものであり、過去数十年、いや数世紀にわたる「共有された歴史」の中には、幾多の浮き沈みや悲劇があり、こうした歴史は一見してそうと思える以上に密接に結び付いている。

本報告書は、日独の歴史、ヨーロッパとアジアの歴史、及び最新情勢を総合的に勘案することの利点を示している。ZMSBwを代表して（また私個人としても）、寄稿者の方々及び日本のNIDSの同志にして友人の皆様に感謝したい。皆様が意見を「共有」してくださったこと、本報告書の刊行に向けてたゆまぬ努力をしてくださったこと、そして、思考の糧をふんだんに与えてくださったことに感謝する。この共同研究のおかげで、我々もさらなる研究意欲に駆られている。

ドイツ連邦軍軍事史・社会科学研究所
第 2 研究部門　1945 年以前の戦史　学術研究員
フランク・ライヒヘルツァー